

## 平成21年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成20年8月8日

上場会社名 株式会社 ニチリョク  
 コード番号 7578 URL <http://nichiryoku.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼社長執行役員 (氏名) 寺村 久義  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役兼常務執行役員 (氏名) 矢田 欣也  
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月14日

上場取引所 JQ

TEL 03-3395-3001

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成21年3月期第1四半期の業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	945	—	20	—	12	—	3	—
20年3月期第1四半期	844	—	△5	—	△34	—	△36	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	0.25	—
20年3月期第1四半期	△2.63	—

#### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第1四半期	11,173	—	3,736	—	33.4	—	272.16	
20年3月期	11,920	—	3,821	—	32.1	—	278.39	

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 3,736百万円 20年3月期 3,821百万円

### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	7.50	7.50
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	7.50	7.50

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成21年3月期の業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期累計期間	2,200	△1.5	260	△2.2	190	△8.9	105	△11.7	7.64
通期	4,800	△2.1	700	△8.4	600	△12.3	300	△1.6	21.83

(注)業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
 (注)詳細は、2ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第1四半期 13,741,014株 20年3月期 13,741,014株

② 期末自己株式数 21年3月期第1四半期 13,666株 20年3月期 13,666株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 21年3月期第1四半期 13,727,348株 20年3月期第1四半期 13,728,863株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記に記載した予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項につきましては、2ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

2. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期会計期間におけるわが国経済は、原油価格の高騰やサブプライムローン問題を起因とした米国経済の減速等から、景況感の悪化と原材料の上昇により個人消費に翳りが出てきており、業者間、地域間格差が顕在化し、景気の先行き不透明感が増しております。当社の属する供養産業におきましても、死亡者が年々増加しているにもかかわらず業者間格差が広がりつつあります。特に年金問題等で高齢者の将来不安が払拭されず、購買意欲は依然低調であります。

このような経済状況にもかかわらず、当社は売上、利益とも前年同期に比べ大幅に改善いたしました。当社主力の霊園事業、堂内陵墓事業においては、春秋のお彼岸時期に墓石、堂内陵墓の受注及び施工が集中することより、売上計上は第1四半期、第3四半期は極端に少なく、第2四半期、第4四半期に集中する傾向にあります。また、墓石工事完成（外柵のみの完成を含む）時点で、売上計上するため、墓地や墓石の販売契約時期と墓石工事の売上計上時期が乖離します。一方、販売費及び一般管理費は毎月ほぼ均等に発生するため、第1四半期会計期間につきましては、営業損失が生じる可能性もある季節的な特徴があります。

当第1四半期会計期間における業績は、売上高9億4千5百万円（前年同期比1億1百万円増）、営業利益2千万円（同2千6百万円増）、経常利益1千2百万円（同4千7百万円増）、四半期純利益3百万円（同3千9百万円増）となりました。

#### 各部門の状況

##### < 霊園事業部門 >

従来式の屋外墓地につきましては、引き続き買い控え、及び小規模化傾向が続く環境下、新規霊園の開園もなく、売上高は4億4千4百万円（前年同期比20.2%減）となりました。

##### < 堂内陵墓事業部門 >

堂内陵墓第三号「関内陵苑（横浜市中区）」の販売手数料収入は、引き続き顧客からの好反響・支持を受けており、当初の計画通りの販売で推移しております。また、堂内陵墓第四号「覚王山陵苑（名古屋市千種区）」が本年3月に完成し、順調な販売実績を上げております。売上高は、「覚王山陵苑」の販売手数料が加わったこともあり、2億8千5百万円（前年同期比102.5%増）となりました。

##### < 葬祭事業部門 >

愛彩花倶楽部会員数の順調な増加により、葬儀施行件数（121件、前年同期比37.5%増）も順調に伸びたことに加え、現代の住環境に適した家具調モダン仏壇仏具専門店「愛彩花ギャラリー」の売上も貢献し、葬儀の地味化傾向からの施行単価の下落を補い、売上高は2億1千6百万円（前年同期比47.3%増）となりました。

### 2. 財政状態に関する定性的情報

#### （1）財政状態の変動状況

第1四半期会計期間末における財政状況につきましては、流動資産は前事業年度に比して6億7千万円減少し、44億2千万円となりました。その主な要因は、現金及び預金4億2千7百万円、完成工事未収入金2億3百万円及び永代使用権9千5百万円の減少、未成工事支出金3千2百万円の増加によるものです。

固定資産は7千6百万円減少し、67億5千2百万円となりました。その主な要因は、長期貸付金1億3千2百万円の減少、霊園開発協力金1千7百万円の増加によるものです。

流動負債は4億1千9百万円減少し、41億2千4百万円となりました。その主な要因は、未払法人税等2億4千4百万円及び1年内償還予定の社債1億5千万円の減少によるものです。

固定負債は2億4千1百万円減少し、33億1千2百万円となりました。その主な要因は、長期借入金2億2千6百万円の減少によるものです。

純資産は8千5百万円減少し、37億3千6百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金9千9百万円の減少によるものです。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

当第1四半期会計期間の業績は、「経営成績に関する定性的情報」に記載のとおり、ほぼ当初予測の通り推移しておりますので、現時点において、平成20年5月15日発表の「平成20年3月期決算短信（非連結）」で公表しました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はございません。

### 4. その他

（1）簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 当第1四半期会計期間末における棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。
  2. 法人税等の納付税額の算定にあたっては、加味する加減算項目を重要なものに限定しております。繰延税金資産の回収可能性の判断にあたっては、前事業年度末以降、経営環境に著しい変化はなく、かつ一時差異の発生状況に大幅な変化がないため、前事業年度末において使用した将来の業績予測及びタックスプランニングを使用して行っております。
- (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
1. 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。
  2. たな卸資産の評価基準及び評価方法の変更  
通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として個別原価法によっておりましたが、当第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として個別原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げ法）により算定しております。  
これによる影響はありません。

5. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成20年6月30日)	前事業年度に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,540,381	1,968,006
完成工事未収入金	186,774	389,791
永代使用権	1,784,181	1,879,680
原材料	68,140	62,272
未成工事支出金	511,004	478,123
貯蔵品	41,608	31,132
その他	288,518	282,585
貸倒引当金	△86	△72
流動資産合計	4,420,524	5,091,520
固定資産		
有形固定資産	1,374,112	1,361,438
無形固定資産	440,574	444,478
投資その他の資産		
長期貸付金	1,511,519	1,644,030
霊園開発協力金	1,544,110	1,526,866
その他	2,135,226	2,105,282
貸倒引当金	△252,673	△253,033
投資その他の資産合計	4,938,183	5,023,147
固定資産合計	6,752,871	6,829,063
資産合計	11,173,395	11,920,584
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	51,363	51,036
短期借入金	881,810	824,440
1年内返済予定の長期借入金	1,892,369	1,830,700
1年内償還予定の社債	340,000	490,000
未払法人税等	4,023	248,582
賞与引当金	14,500	50,000
役員賞与引当金	3,600	25,000
その他	936,902	1,024,724
流動負債合計	4,124,568	4,544,484
固定負債		
社債	20,000	40,000
長期借入金	3,038,227	3,264,308
退職給付引当金	135,854	134,824
役員退職慰労引当金	85,675	81,661
その他	33,002	33,707
固定負債合計	3,312,758	3,554,501

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成20年6月30日)	前事業年度に係る 要約貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債合計	7,437,327	8,098,986
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,306,842	1,306,842
資本剰余金	958,082	958,082
利益剰余金	1,593,656	1,693,162
自己株式	△2,877	△2,877
株主資本合計	3,855,703	3,955,210
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△101,927	△106,272
繰延ヘッジ損益	△17,709	△27,339
評価・換算差額等合計	△119,636	△133,612
純資産合計	3,736,067	3,821,597
負債純資産合計	11,173,395	11,920,584

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
売上高	945,652
売上原価	322,938
売上総利益	622,714
販売費及び一般管理費	601,798
営業利益	20,916
営業外収益	
受取利息	13,187
保険解約返戻金	9,446
受取配当金	6,169
その他	4,000
営業外収益合計	32,803
営業外費用	
支払利息	36,416
その他	4,493
営業外費用合計	40,910
経常利益	12,809
税引前四半期純利益	12,809
法人税、住民税及び事業税	1,948
法人税等調整額	7,412
法人税等合計	9,360
四半期純利益	3,448

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
営業収入	1,202,894
原材料又は商品の仕入れによる支出	△244,210
人件費の支出	△321,091
その他の営業支出	△493,250
小計	144,342
利息及び配当金の受取額	20,000
利息の支払額	△37,614
法人税等の支払額	△241,254
営業活動によるキャッシュ・フロー	△114,525
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の預入による支出	△9,175
定期預金の払戻による収入	236,000
有形固定資産の取得による支出	△26,072
無形固定資産の取得による支出	△23,043
貸付金の回収による収入	133,159
霊園開発協力金の支出	△35,401
差入保証金の差入による支出	△16,169
差入保証金の回収による収入	18,647
その他	1,677
投資活動によるキャッシュ・フロー	279,622
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入れによる収入	450,000
短期借入金の返済による支出	△392,630
長期借入れによる収入	300,000
長期借入金の返済による支出	△464,411
社債の償還による支出	△170,000
配当金の支払額	△88,990
財務活動によるキャッシュ・フロー	△366,032
現金及び現金同等物に係る換算差額	134
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△200,800
現金及び現金同等物の期首残高	1,189,158
現金及び現金同等物の四半期末残高	988,358

当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。



## 「参考資料」

## 前四半期に係る財務諸表等

## (1) (要約) 四半期損益計算書

科目	前年同四半期 (平成20年3月期 第1四半期)
	金額 (千円)
I 売上高	844,195
II 売上原価	346,924
売上総利益	497,271
III 販売費及び一般管理費	502,598
営業利益	△5,326
IV 営業外収益	9,196
V 営業外費用	38,227
経常利益	△34,358
税金費用	1,809
四半期純利益	△36,167